



大加良久羅

一

特別  
~ 5  
6044  
1



十五

印

黄文をいへりては...  
 眼...  
 物...  
 時...  
 彼一瓢を...  
 上...  
 黒...  
 志...  
 其...  
 寛文十一年...



印

寶藏卷之一目錄

- 一 惠比次大黒棚 あひびしだいこくろ
- 二 白表具 しろはょうぐ
- 三 紙 かみ
- 四 筆 ふで
- 五 分廻 ぶんまわし
- 六 硯 いん
- 七 机 つくえ
- 八 文筆 ぶんぶ
- 九 兎玉 うさぎたま
- 十 朝鞆 あしたづま
- 十一 茶籠 ちやろう
- 十二 土左 つちざ
- 十三 半袴 はんかま
- 十四 枕 まくら
- 十五 焼産 やうさん

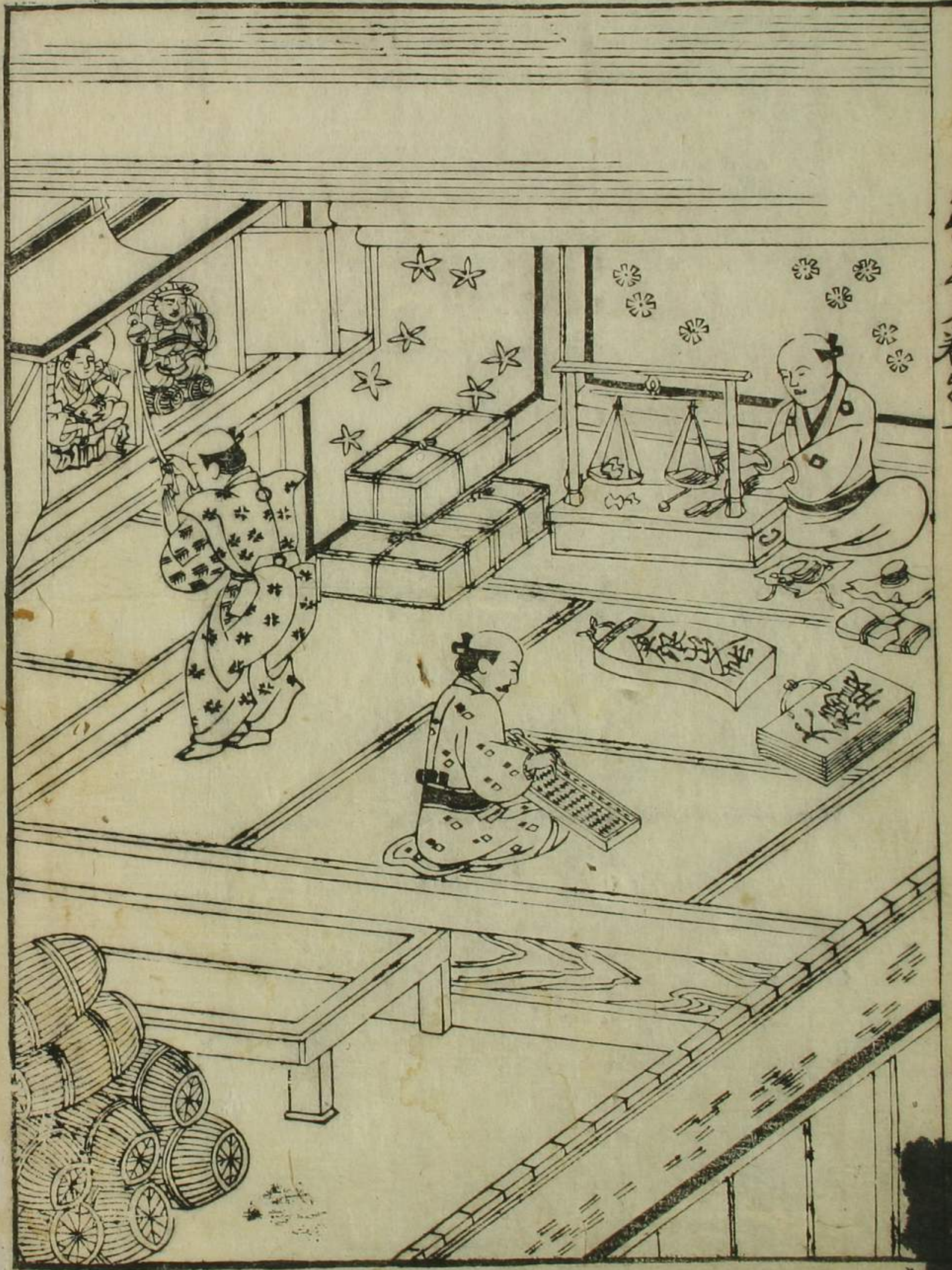
寶藏卷之一

一 惠比次大黒棚

福々たる乃角半丸玉色あねどくくハ金銀本儀の  
 事也とや。そゝゑに儒者の礼義に海さうくく  
 多く之法師の御座よか。らそしきおねる也。  
 てと志とる所そのとや。あつにうさぎ玉の福  
 の四非おく。海と。ハ大徳神の波と跪立心  
 そろく。きりり形あさうく。十五の掃者らひらり  
 くく。さ。氣とせよとけり。きにあとやうあく  
 けのよ。徳人。り。懐とさねく。いの心よ。うさぎ  
 福成あさ。路と。とや。二非ハ。戸。名。國。乃。四。非。一。非。ハ

永田文庫  
 連作元障





二 白丸

此邦の株を、野に買ひ、名を、汝に、積む。詩賦を、  
 誦読する。書札を、母の、色を、けり。あ、と、東  
 へ、く、さ、べ、ん、ら、れ、の、今、成、け、し、ら、な、ま、り、  
 そ、の、か、ら、や、と、も、ん、も、い、れ、め、は、し、  
 あ、ま、し、あ、ら、ぬ、命、に、か、ら、ら、い、わ、せ、あ、い、  
 い、の、く、つ、め、で、は、ら、い、  
 ぶ、ら、さ、の、ま、の、ら、あ、い、  
 皮、五、柳、先、生、の、ま、る、た、現、今、を、  
 と、引、と、ゆ、は、あ、ね、じ、  
 を、か、ら、し、ら、ぶ、  
 五

月むらもどさうねるやあそび

一軸解紐懸折釘  
惣中碑不入風体

始知白紙勝圖書  
唯應作窓間月昏

三紙

迦漫類迦乃和にるは獅子猛勢の岩にが好  
いさやのあつこやどくそを筆とまめられその声乃  
流るものありし。況や人のわら声もやみ真  
の言活る棟那の夫流あはんと使くあれま人も  
そそゆべさやどくそえめ年月をそいひく

うさうさくさうさうさうさう人。はあよ一紙二紙十  
筆百筆ありてそくい渡歌そくいあづ  
のうてゆぐと。一対乃四りそくくのら成倍  
あふそそ娘。くればはは種とま羅葉よりこ  
取也と殺まにさうと。はあのゆこらあはあハ  
かぐぐぐ。ふ候他子男れまとえくま徳と合  
と心らるる倫育院宣御あさ乃詳さうたに及が  
うくやたあのみよの置のあのみび流もとあはは  
山のうらふちげふもさうらんまひのわどくま徳  
はむやうんとさ乃井のあさく入さうんいむらあ  
はとあわらやうや

み活みや河乃むのま那らるひ

蔡倫漉出徳難圖

厚薄随心使若奴

雖一枚當縣大事

法然起請濟衆愚

④ 等

あゝのたはぶあゆのさといふ事いふらう  
 夫がトとまうらびのめと繩といふびくその志  
 ありとまうたはぶよの事つさましく形く人の  
 心をれがらまはるるのづう治まるこころやう  
 く世の事つごととまきづく人ららまらう

るあゝのたはぶあゆのさといふ事いふらう  
 あゝのたはぶあゆのさといふ事いふらう  
 くにをわくさ類考のたといふく初ていふ  
 うりてまらまらうのさといふ事いふらう  
 事にいふまらうのさといふ事いふらう  
 ぶんめい法よりいふらうのさといふ事いふらう  
 内府のたはぶあゆのさといふ事いふらう  
 あゝのたはぶあゆのさといふ事いふらう  
 あゝのたはぶあゆのさといふ事いふらう  
 今ていふらうのさといふ事いふらう  
 ろる人いふらうのさといふ事いふらう

多しあはれどもしてふまゝのいふはりし  
あましの所よとてして着るものもよあつた  
みゆしてあつて付ゆるもの。たけしものそよ  
しつとよもよもひて。秦の世し。蒙恬といふ  
らん今の世の事はつとてしてしつとて  
つとあやとくつとあつとてしつとて  
ど。王義とてつとあつとてしつとて  
いふ。あまのいとあまのいと。つとあま  
風らあまのあつとてしつとてしつとて  
あまのせよとてしつとてしつとて  
あつとてしつとてしつとてしつとて

ぬあひとけつとてしつとてしつとて  
うとつとてしつとてしつとてしつとて

多しあはれどもしてふまゝのいふはりし

言語難通唐國徒 仕形爭盡對顏愉

虚空勿受殺生戒 不獲獸毛頭世無

五 分廻

乙輸子が巧も規矩とつとてしつとて  
つとあつとてしつとてしつとてしつとて  
のそあつとてしつとてしつとてしつとて



人小いんをちうくゆるま。人のらる人とはひらり  
ひくよ。さうとそわらひけとく。げと年一らり  
とわらひん。さうとそわらひけとく。げと年一らり

ゆるさうとそわらひけとく。げと年一らり

番匠繪書常用來

手涯美悪掬其才

莫言工倂成丸妙

天運循環大分回

六祝

と暮あ人生と勇とく。さうとそわらひけとく。げと年一らり  
賢の居よとく。さうとそわらひけとく。げと年一らり

佛陀の境より。さうとそわらひけとく。げと年一らり  
況やんく。月ゆふと。唐子西の。さうとそわらひけとく。げと年一らり  
ふり。さうとそわらひけとく。げと年一らり  
銅雀の尾乃祝より。さうとそわらひけとく。げと年一らり  
祝より。さうとそわらひけとく。げと年一らり  
つ。さうとそわらひけとく。げと年一らり  
の書と。さうとそわらひけとく。げと年一らり  
さうとそわらひけとく。げと年一らり  
なり。さうとそわらひけとく。げと年一らり  
に。さうとそわらひけとく。げと年一らり  
さうとそわらひけとく。げと年一らり



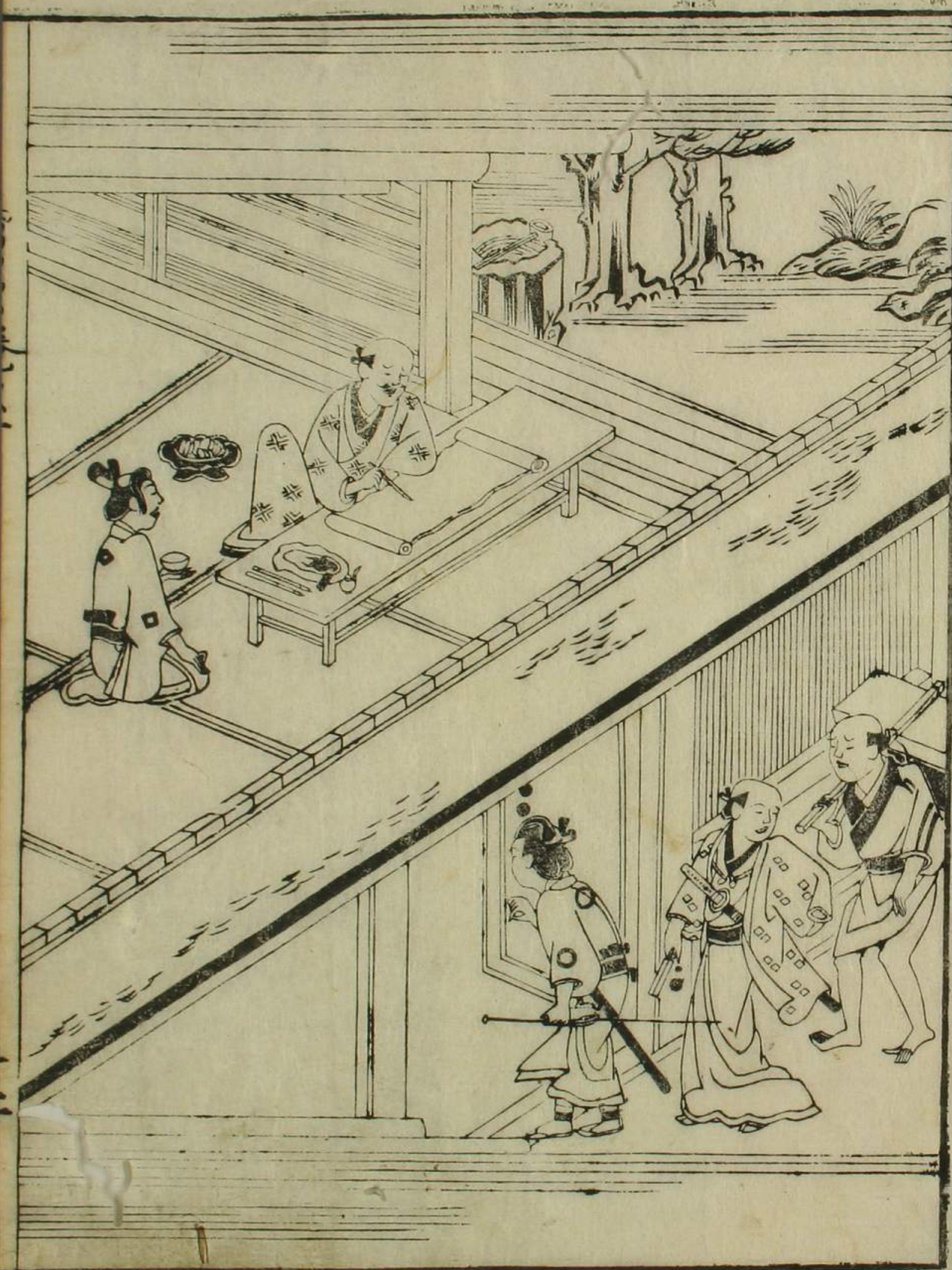
句は字をこゝやを方八月廿八日

朝アサ夕ユフ寢ネ起オキ方ハ丈ダ康ヤスシ

花ハナ窓サウ梨リ院イ得エテ賓ヒン芳カウハシ

金キン間カン何ナニ及ツキ書シヨ生セイ生シツ儿ニ

千セン聖セイ万マン賢ケン日ニとト槍ツツ











夫も〜と妻のつねね娘がうねくと〜  
 夫も〜と世の幸よあ〜とや海は父母の〜  
 生ど〜と此抽さま〜と母の〜と〜  
 この〜と男よとつ〜と命の親〜と〜  
 り心は〜と病の〜と〜と心世〜と〜  
 とも〜とあを〜と〜と〜と〜

月や〜と業終乃外表気の業

大哉濟世斬歧術

便孝弟還活計媒

藥不殺人藥師殺

威言無用磋其才







とく月日狐やーさあらん  
雲あふふ朝あふ月もや砂土を

キヤミヨラ 念々年々多々三考(ハカリミ  
刻意 回工越扁輪

ツ、ハッ キンゾ イレ ナカキ  
時々拂域不容塵

ソノカミ シ カケチ アラキニ ヨクニ  
當物仕掛在函谷

ミラカカ ケイオイ ヨモ  
孟客雞鳴世物嘯

十三 半海

海の打中あふふ何と秘あふの蒸けどほぐく  
あふふのあふふと海と豊の何と。あふふと  
あふふのあふふと海と豊の何と。あふふと  
あふふのあふふと海と豊の何と。あふふと

神りうらみ能信の作名い入おの善とらるを  
あふふのあふふと海と豊の何と。あふふと  
あふふのあふふと海と豊の何と。あふふと  
あふふのあふふと海と豊の何と。あふふと  
あふふのあふふと海と豊の何と。あふふと  
あふふのあふふと海と豊の何と。あふふと  
あふふのあふふと海と豊の何と。あふふと  
あふふのあふふと海と豊の何と。あふふと  
あふふのあふふと海と豊の何と。あふふと  
あふふのあふふと海と豊の何と。あふふと

あふふのあふふと海と豊の何と。あふふと

月と海とやうい業つけ花うの

あふふのあふふと海と豊の何と。あふふと

飽休淡飯忘功名

一種風流在濃茗

十四枕

耶弊乃里のしらぬりーの世名め十年のたれ  
色一飲の憂しうらとゆうにさかてゆ  
じ。又いづれいんちうちやまてくらの枕の  
しそちうがあらうらとゆうにさかてゆ  
栢のさうらとゆうにさかてゆ  
つと枕とちやゆらうのさかてゆ  
らえしうらとゆうにさかてゆ

出願庭柯情益清  
客人歌耳半鐘声

うぬもらうとゆうにさかてゆ  
しと色ささうらとゆうにさかてゆ  
ゆふとちやゆらうのさかてゆ  
よやふらのものさかてゆ  
やいしとゆうにさかてゆ  
さかてゆらうとゆうにさかてゆ  
一とゆうにさかてゆ  
しと色ささうらとゆうにさかてゆ  
ゆふとちやゆらうのさかてゆ  
よやふらのものさかてゆ  
やいしとゆうにさかてゆ  
さかてゆらうとゆうにさかてゆ  
一とゆうにさかてゆ  
しと色ささうらとゆうにさかてゆ  
ゆふとちやゆらうのさかてゆ  
よやふらのものさかてゆ  
やいしとゆうにさかてゆ  
さかてゆらうとゆうにさかてゆ  
一とゆうにさかてゆ



くさみよや 従来よあり とうろるぶ ぬけ  
うらもいしれう

燭タカよとろるく わるぶ ぬけ

常ツ子々負孔氏之孫ニゴト

以モツテ一餘雖竭ヨラ氣イモ根ツク

明德オイ味トク嘗成我物イマ

灯トウ臺ダイ本モト暗クラ学キ窓カク窓ソウ怨ウラミ

家範一卷終



